



化学物質による健康被害防止 に向けた連合の考え方



日本労働組合総連合会（連合）

総合労働局 雇用対策局

漆原 肇

化学物質に対する連合のスタンス

■現代社会は数多くの化学物質により支えられており、我々は日々化学物質のメリットを享受

■化学産業は多くの雇用を支え、様々な分野に必要な素材を供給する日本の基盤産業



■需要の多様化に伴い、新たに事業場に導入される化学物質が増加

■その危険性・有害性評価に関する情報は不足しており、情報収集とリスク評価・リスク管理をさらに進展させることが不可欠

- 現在法令で規制されている化学物質への対応に加え、事業者が事業場の化学物質取扱い作業について、SDSなどにより必要な情報を収集
- 作業環境、作業実態をよく把握した上で、リスクアセスメントを実施し、当該結果に基づき必要なばく露防止対策を講じることが必要
- 健康診断結果や労働者の健康状態から化学物質のばく露による健康影響を確認し、そこからもリスク要因の洗い出しとリスク低減措置の適否を検討する視点が重要

連合の政策(1)

- 連合は、2年に1度「要求と提言」という労働組合としての政策集を策定し、政府・地方自治体などに対し、その実現に向けた要請を実施
- 化学物質については、「化学物質対策を強化し、環境への影響を最小化する」観点から政策を策定

- SAICM国内実施計画およびSDGsの目標にもとづき、製造・使用から廃棄に至るまでの化学物質のライフサイクル全体を通じたリスクの低減を促進
- QSARやカテゴリーアプローチなどによる推計手法の精度の向上および適用場面の拡大
- 化学物質の許容摂取量以下(低用量)の長期ばく露影響や、低濃度複合ばく露影響などの調査・研究体制を充実
- 化学物質に関する法律・制度を国民に解りやすく周知・広報
- 化学物質の安全性に対する国民の不安への対処や、リスク評価・管理における取り組みのさらなる連携・強化
- 化学物質の管理や取り扱いを行う専門性の高い人材の計画的な育成

連合の政策(2)

- ばく露予防など化学物質による労働災害の予防と再発防止対策を強化
- 第13次労働災害防止計画にもとづく化学物質対策の着実な実施

- 化学物質の危険性・有害性に関する情報を適切に把握・収集し、その結果に基づく規制の見直しと、収集した有害性等の情報の公開(分析の精度向上に資する情報を公開)
- 化学物質のばく露などによる影響を的確に診断できる医師の育成強化
- 事業場において使用・保管されている化学物質・製品などの危険性・有害性情報の労働者への開示・伝達の徹底
- 危険性・有害性が明確でない化学物質・製品を事業場で使用しないことの徹底
- 危険性・有害性が確認された化学物質のばく露防止・リスク低減や、爆発・火災防止などの安全対策の徹底
- 化学物質を扱う労働者に対する健康診断・健康相談や労働衛生教育の充実など健康管理体制の整備・拡充

職業性胆管がん(2012年)

- 1,2-ジクロロプロパン(DCP)を主成分とした塩素系有機洗剤を大量に使用してきた印刷工場の労働者がきわめて高頻度で胆管がんを発症(日本における一般的な胆管がんの発症率や死亡率と比べ、高頻度かつ若い年齢層での発症)
- こうした状況に疑問を抱いた熊谷信二・産業医科大准教授が調査

- DCPは、オゾン層破壊物質の代替品として、主に1990年代中ごろから販売されたインク洗剤に含有
- 発症があった事業場では換気が不十分で、洗剤作業に従事していた労働者は高濃度の蒸気にばく露(定期健康診断実施状況報告はされていない)
- DCPは、急性毒性だけではなく、高濃度・長期間のばく露によりがんが発症
- 洗剤に有機溶剤中毒予防規則の対象物質は含有せず
- 厚労省は、労働安全衛生法施行令等を改正し、DCPを特定化学物質に追加



- **がんなどの疾病について、化学物質のばく露と関連付けて診断や疫学的調査を実施できる医師等を計画的に育成していくことが必要(このケースでは発症が稀な若年の胆管がんの診断で、患者の有機溶剤業務の把握が必要と考える者)**
- **現時点で未規制の化学物質についても、一定の基準を超えていれば対策が必要**
- **事業場で使用する化学物質について、労働者にも周知や教育することが必要**

職業性胆管がんの調査・研究

- DCPの大量ばく露と胆管がん発症とをつなぐ分子機序は当初は未解明
- 東京大学医学部附属病院薬剤部は発症の仕組みを研究し発表
- 労働者健康福祉機構は入院患者病職歴データベースを用いて腫瘍占拠部位との関連を調査

- 東京大学医学部附属病院薬剤部の研究チームは、肝臓で生じた反応性代謝物が胆汁中に排泄される結果、胆管での発がんリスクが高まる可能性を提唱。他の物質でも同様に胆管がんの要因となる可能性を指摘
- 労働者健康福祉機構によれば、有機溶剤使用(推定)と若年発症との関連は認められなかったものの、若年性では肝内胆管癌症例が有意に多く、病理学的な検討が必要と指摘



- 今後の同様の職業性疾病を未然に防ぐ観点から、事件後の調査・研究も不可欠であり、そのための専門家の育成も必要
- 職業病として発がんの可能性を探るための基盤整備が必要

職業性膀胱がん(2015年)

- 芳香族アミン(オルトトルイジン)を取り扱う化学工場で、労働者5名が膀胱がんを相次ぎ発症(膀胱がんの発症率は24人/10万人)
- オルトトルイジンは、安衛法第57条の2にもとづくSDS交付対象物質に指定されており、PRTR法の第1種指定化学物質にも指定
- 発症者のうち1名が福井労働局に労災保険の手続について相談し発覚

- オルトトルイジンは、繊維製品などに染料として使用されたものが、ヒトの体内の酵素などにより還元分解されて発生する発がん性物質(特定芳香族アミン)
- 2015年4月に「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」で特定芳香族アミンを指定物質に追加して公布(施行は2016年4月)
- 厚労省は、オルトトルイジンを特定化学物質(第2類物質)に追加し、作業環境測定の実施、発散抑制措置、特殊健康診断の実施等を義務付け
- 厚労省は、経皮吸収によって健康影響を及ぼす可能性が高いとされている物質による職業がん発生を防止するため、労働安全衛生法施行令及び特定化学物質障害予防規則等を改正(施行は2017年1月)



- 危険性・有害性が確認された化学物質のばく露防止・リスク低減対策の徹底
- 健康診断・健康相談や労働衛生教育の充実など健康管理体制の整備・拡充

職業性がんとリスクアセスメント

- 労働安全衛生法が2017年に改正され、化学物質のリスクアセスメントが義務化
- 本日紹介した職業性がんの事例についても、事前にリスクアセスメントを実施していたら被害を最小限に抑えられた可能性も
- 日本の化学教育は、文系であれば高校1年で終わるケースもあり、今後のリスクアセスメントの実施者の不足も懸念

- 化学物質のリスクアセスメントは、事業場で使用される物質の危険有害性を把握し、そのリスクの低減など必要な対策が講じられるかを点検。
- 同時に、健康診断結果や健康状態から化学物質のばく露による健康影響を確認し、リスク要因の洗い出しとリスク低減策の適否を検討
- 実施したリスクアセスメントの結果を労働者に周知

- 事業者と労働者が化学物質の危険有害性を適切に認識し、事業者がリスクに基づき必要な措置を実施
- 化学物質の危険有害性とそれに対する健康障害防止措置の履行を理解することは容易でない場合もあることから、労働者に対して定期的な教育することが必要

労働衛生機関の利用

- 労働衛生機関とは、健康診断や作業環境測定に加え、産業医活動の受託、労働者の健康保持増進に関するサービスなどを提供する機関
- 料金ではなく健康診断の質を評価して健康診断機関を選定すべき

- 健康診断のみを提供する機関や健康診断と保健指導の2つだけを提供する機関が多いが、事業場における化学物質のばく露による健康障害を把握するためには多職種連携により産業保健サービスを提供できる労働衛生機関の利用が重要
- 異常を見逃さないためには、産業医と診断機関、作業環境測定士との情報共有・連携が必要



どのような労働衛生機関が良いのか？

- 学会などへの参加・研究発表、内部における調査研究活動、教育研修の実施・参加等により、技術水準の向上に努力
- 健康診断機関に労働衛生コンサルタント(保健衛生)、日本産業衛生学会の指導医・専門医などを配置
- 事業場の全体集計や労働基準監督署への結果報告書などの集計・分析ができるとともに、事業場全体の傾向を把握して事業場の健康確保対策への支援が可能⁹



連合公式ホームページ

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/>



Web上における連合の顔として、広く社会に向け、連合の考え方・活動をわかりやすく伝えています。



連合公式Facebook

<https://www.facebook.com/jtuc.rengo/>



連合の活動、社会へのよびかけをタイムリーに発信しています。



連合公式twitter

<https://twitter.com/unionion>



連合公式キャラクターのユニオニオンが、働く人たちに向けてつぶやいています。



月刊連合

いま社会で起きていること、連合が力を入れている運動などを、わかりやすく解説。紙・電子版をご用意しています。

[申込はこちら]

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/shuppan/teiki/gekkanrengo/>

◆ 連合公式キャラクター・ユニオニオン ◆

連合のPR大使のUNIONION (ユニオニオン) です。UNION (組合) とONION (玉ねぎ) を合体させた名前です。ONIONの語源がラテン語の「UNION (集合体)」に由来しているんです。



連合 なんでも労働相談ダイヤル

フリーダイヤル

いこうよ

れんごうに

0120-154-052

全国どこからでもかけた地域の「連合」につながります。

ご清聴ありがとうございました！

